

自 平成18年4月 1日
至 平成19年3月31日

平成18年度 事業報告書

東京都新宿区下落合2-14-22
財団法人 波多野ファミリスクール

財団法人 波多野ファミリスクール
平成18年度 事業報告書

創設以来44年間“心身の健康と国際性をすべての人に！”をモットーに生涯学習の立場に立った下記の事業を積極的におこない、平成18年度も大きな成果をあげることができた。以下、実施した事業の概要を列記する。

(「延べ人数」は、原則として、実員×日数または回数)

I. 幼児を対象とする事業

1) はじめての教室2歳・3歳児コース(2歳～3歳)

成長が著しい2歳～3歳のころは、人格形成の上でも大切な時期である。この時期に、同年齢の友だちと存分に遊ばせ、その中で人間の基礎づくりをさせるための指導をした。集団の中での遊びをとおして、我慢することや譲り合うことの大切さを知らせた。また、広い体育室では、走ったり、とび降りたり、転がったりといった「神経感覚系」の機能を伸ばす遊びを多く取り入れ、心身ともにたくましい発達を促すことができた。同年齢の子どもたちから刺激を受けて、家庭の中ではなかなか身につけにくい「自立心」「協調性」「社会性」「豊富な語彙」の習得などに大きな発達が見られ、健全な人間の育成の一助となった。

また、18年度から3歳児コースを対象に適応教育や造形教育を専門とする教員が「特別保育」をおこない、他の幼児教育機関とは異なるタイプの指導を採り入れた。

*1歳児コースは後記の「Ⅲ. 親と子を対象とする事業」の欄に記載。

参加者 96 人 延べ 9,499 人

2) 幼児体育教室(2歳～6歳)

健康の促進と、安全に対する判断力・克己心を養うことをねらいとして指導した。体を動かすこと、仲間と一緒に運動する楽しさを十分に経験させた結果、運動の基礎能力が身についたばかりでなく、血液の循環や内臓器官の働きが活発になり、深い睡眠がとれるようになって、健康な生活をおくることができた。

なお、夏休みには4日間の集中授業をおこない、運動不足の解消に役立てた。

参加者 108 人 延べ 4,060 人

3) 幼児剣道教室 (5歳～6歳)

幼児の新入会希望者がいなかったため、開設しなかった。

参加者 0 人 延べ 0 人

4) 言語力UP教室 (3歳～6歳)

「自分の思っていることを、自分のコトバではっきり表現できる子に育てたい」との考えから、すすんで話したくなるような《驚き・発見》などをたくさん経験させたところ、子どもたちはそれらに興味や関心をもち、気がついたこと・感じたこと・考えたことを「コトバ」で表現できるようになった。感性や思考力・創造力を育てるばかりではなく、友だちとの遊びをとおして協力・親切・忍耐といった内面的なものにも気づかせ、豊かな心情を培い、人間関係を深めさせることができた。

参加者 91 人 延べ 3,185 人

5) 園児サマースクール(4歳～6歳)

親から離れた生活をとおして、自分のことは自分でおこなう態度と、未知のことに対しても積極的にかかわる意欲を養うため、御殿場で2泊3日の合宿をおこなった。広々とした空間・人工的な遊具がない環境の中、自分たちで遊びを創り出し、グループで相談しながら遊び方を工夫し、それを存分に楽しむことができた。その結果、違った考えを受け入れて調整することや、自分の判断で行動することができるようになり、ひとまわり大きく成長したようである。

参加者 56 人 延べ 168 人

II. 青少年を対象とする事業

1) 学習力UP教室(小学生)

教え込まれた知識では解決できないような問題に直面させ、これを解決する「力」を身につけさせるための指導をした。低学年では、測る・比べる・組み立てるといった操作活動を多く取り入れ、高学年では、なるべく多くの解き方や答えを出させるようにした。その結果、柔軟な思考力と多様な見方が身についた。

参加者 5 人 延べ 175 人

2) 発信力UP教室 (小学生)

抒情的な叙述になりやすい日本の作文指導のあり方に一石を投じた教室である。言語の主たる機能が、意思・情報の正確な伝達にあることに着目。自分たちで遊びを考え、ルールを決め、それを他の人が読んで分かるように文章化するなどの活動をとおして伝達能力と論理的な思考力とを伸ばした。

参加者 11 人 延べ 385 人

3) 短期学習教室(小学生)

日本の教育課程は広い範囲の内容を網羅しているだけに、学校教育の場では手の届かない所が出てきてしまう。しかし、それを見つけ、補習する余裕のないのが学校教育の現状である。そこで、学期の大きな区切りとなる夏休みに、それまでの学習に「もれ」がないかどうかをチェックし、それを速やかに補うため、算数・国語について6日間の集中指導をおこなった。

参加者 23 人 延べ 138 人

4) 体育教室(小学生)

仲間と一緒に運動する喜びを味わわせるとともに、各種の運動に意欲的に取り組ませ、協調性や積極性を身につけさせた。個別指導と集団指導とを組み合わせ、興味をもって学習させることを心がけた結果、体力がつき「体育」に自信をもったことで、学校生活全般にも意欲的にかかわれるようになり、安全に対する理解も深まった。なお、夏休みには外部から15名の参加者を含め6日間の集中授業をおこなった。

参加者 64 人 延べ 2029 人

5) 剣道教室(小・中学生)

剣道の現代的な意義を理解させ、技の修練をとおして心身の健全な発育をはかり、新しい時代に即応できる社会性を身につけた日本人を育てることをねらいとして指導した。その結果、規律・行儀作法が身につく、心と体の健全な発達が見られた。

参加者 12 人 延べ 315 人

6) 乗馬教室(小・中・高生)

乗馬をとおして「危険に対する身の処し方」を学ばせ、動物や自然を愛護する心を育てることをねらいとして、那須の乗馬クラブで3泊4日の合宿を夏休みに実施した。子どもたちは、人馬一体となって馬場を駆けめぐるができるようになり、「努力することの尊さ」も実感できた。

参加者 15 人 延べ 60 人

Ⅲ. 親と子を対象とする事業

1) はじめての教室 1 歳児コース(1 歳児と母親)

子どもが友だちを求めるような年ごろになってきたが、「近くに友だちがいない」「友だちとのかかわり方・かかわらせ方がわからない」といった親子を対象に、子どもには無理なく遊びに入れるように指導し、母親には絵本や子どもと一緒に歌う歌の選び方などについてのアドバイスや、育児に関するカウンセリングをおこなった。その結果、親の不安が解消され、子どもも安心して遊べるようになった。

参加者 102 人 延べ 3,876 人

2) 親と子のサマースクール(3 歳児と親)

夏休みの保育の一環として、親と子の合宿を軽井沢でおこなった。子どもは、広大な森などで遊んだり、親子乗馬や野外調理をしたりするなど、都会では味わえない経験を重ね、新しい環境・新しい友だちとのかかわりを学び、活発に遊べるようになった。また、衣服の着脱や食事なども、友だちのしぐさを見て学習し、親の手助けなしにできるようになった。子どもたちが、より自立心を養い、社会性を身につけ、大きく成長したことを2学期以降にはっきり見てとることができた。また、親は自分の子どもを客観的に観ることを学んだほか、親同士・親と保育者との話し合いによって交流を深めることができた。

参加者 76 人 延べ 228 人

IV. 成人を対象とする事業

1) 母親指導

子どもの見方や扱い方、また、発達・しつけなどについて、1歳児の保護者には年7回のカウンセリングを定期的に、2歳・3歳の保護者には不定期で開き、具体的な問題を話し合ったり、アドバイスをおこなったりした。その結果、母親はさまざまな不安や疑問の解決の糸口がつかめ、かたよった情報に流されることなく、安心して子育てができるようになった。

参加者 91人 延べ 397人

2) 母親研修

子どもを立派に育てるには、親自身が自立し、協調性・積極性を身につけ、広く社会にも目を向け、教養を高めることが必要だと考え、年6回「お母さんの勉強会」を開き、教育問題・社会情勢など幅広い問題について指導をした。

参加者 136人 延べ 1000人

3) 教育相談

幼児・児童のしつけ・教育・学習態度・登校拒否の問題や、帰国・来日した子どもの生活の適応・ことばの問題などについて、個別相談をおこなった。

参加者 20人 延べ 24人

4) 「自然に学ぶ」育児講座

自然界の「理(ことわり)」から人間が学ぶべきものを取り上げ、それを「育児」という観点から整理して親に話をした。「歩く」「噛む」といったヒトとしての基本的な能力が育ちにくい現代社会において、どのように子育てをすべきかを、参加者と共に考えていくことができた。

参加者 30人 延べ 90人

5) コントラクト・ブリッジ教室

どんなところでも気軽に楽しめる知的なゲームであるコントラクト・ブリッジで熟年世代が社交性を保持しながら、記憶力・推理力・判断力を養い、老化防止・脳細胞の活性化を図った。

参加者 31 人 延べ 352 人

6) ヨーガ教室

呼吸法・気功法などを取り入れ、無理をせずに、できることから1人ひとり指導した。その結果、心を鎮め、心と体の健康をつくり、病気の予防にも成果をあげることができた。

参加者 29 人 延べ 355 人

7) 書の教室

「習いたい文字から気軽に習える」という方式の書道教室。参加者からは「子育てに追われてゆっくり習い事をする時間がなかったが、久しぶりに心のゆとりがもてた」「子どもを連れてきたその足で習えるので助かる」と好評であった。

参加者 10 人 延べ 98 人

8) 国際教育研究指導

帰国外国人児童生徒教育に関わる教員やボランティアを対象に、全国で11回、日本語指導・教科指導・生活指導に関する講演やモデル授業をおこなった。

参加者 492 人 延べ 492 人